



隈府小だより

学校教育目標 「自ら考え なまこと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No34
文責 芹川博文
1月 16 日(金)

8年間の見守り ～ 子どもたちの安全を守っていただく温かさ～

痛みを覚えるような寒い日が続いている。そんな冬の朝も毎日交差点に立ち、子どもたちの登校を見守っていたいのは、学校運営協議会会長の益崎 充博 様です。伺ったところ、なんと約8年も続けていただいていること。その間、数々の「ヒヤリ・ハット」が重大事故になるのを防いでいただいたことと想像します。「横断歩道の白線は引き直してくださいました。以前からお願いしました。やっぱ見え方が全然違いますもんね」とのこと。私なら見落とす点にも気を配り、実際に動いておられたとは、ただただ恐縮であり感謝です。



実はこの益崎会長は、私にとって「益崎先生」です。さかのぼること約40年前、私が鹿本高校で柔道をしていた当時、益崎先生は阿蘇高校で柔道部の顧問をされており、毎年数校が集まる春夏の合同合宿で大変お世話になりました。なかなかハードな合宿でしたが、一度声をかけていただいたのを覚えています。苦しい時の「ひと言」の温かさは忘れないものです。

見ると1年生が一人で横断歩道を歩いてきました。あまりの寒さのためか目が潤んでいるように見えます。「おはよう」と声をかけられた益崎先生。温かさが伝わったことでしょう。

「あいさつ そうじ 時間」～ 頑張る時は みんなで頑張る～

隈府小学校で大切にしている3つの重点の中の1つは、掃除です。掃除時間に回ってみると、右の写真の姿に



感動。思わずシャッターを切りました。隈府小では無言掃除に取り組んでいます。

学校では相変わらず、雑巾とほうきが主流です。一方、ご家庭では掃除機（中には自動で動き回る掃除機）やフローリングワイパーが主流かも。正直、昭和のままです。時代遅れかもしれません。しかし、子どもたちの心を育む貴重な時間と考えます。

かつて隈府小に体験通学していたオーストラリア人のご家族が、約10年ぶりに来日して再会した際、「日本の学校文化、特に自分たちで登下校することと、掃除をすることが素晴らしいと思い、子どもを通わせたいと思った」との母親の言葉が印象的でした。快適さがあふれる今日、みんなで場を清める積み重ねで、「頑張る時はみんなで頑張る」「学校も自分の持ち物も大切に使う」心を育んでいけたらと願います。隈府小の子どもたちを誇りに思う時間の1つです。

寒さの中の温かさ ～ 言葉の温かさと 草花の力強さ～

冬になると思い出す場面があります。毎朝、職場に入ってあいさつ直後に、「今日のオイミヤコン（ロシアの極寒地域）は何度だろか？」と、尋ねる先輩の先生がおられました。自分で調べ、「お～、今日は-33℃か。昨日よりは寒なかばいな。一回行ってみろごたるな」など。その場が和み、温かな空気になったことを思い出します。



右の写真は、寒さでパリパリに白くなったパンジーです。寒さの中でじっと耐え、日が差すと元の元気になるパンジーや桜草の力強さ。

「がんばってるな」と感じます。じっと春を待ち望んでいるのは、草花も同じかもしれません。

「寒いね」と 話しかければ「寒いね」と 答える人のいるあたたかさ (俵 万智)